

コロナウイルス文献情報とコメント(拡散自由)

2023年1月16日

Lancet 論説：

新型コロナパンデミック：今年も収束に程遠い

【松崎雑感】

主に中国の状況を対象とした論説です。感染力の高いウイルスの封じ込めが非常に難しいことを中国は証明してくれました。

今のところ、効果の高いワクチン免疫が重要だということが、この3年間の最大の知見だと思います。少しずつ感染を増やして、徐々に集団免疫を形成するという手段も必要かなと思われれます。

今、私たちは、一世紀前の「スペイン風邪」と言うエポックメイキングの事態のリアルタイム目撃者となっていることを思い知らされます。

論説：新型コロナパンデミック：今年も収束に程遠い

The Lancet. **The COVID-19 pandemic in 2023: far from over.** *Lancet*. 2023;401(10371):79. doi:10.1016/S0140-6736(23)00050-8

中国CDCが新型コロナウイルスを発見してから3年が経った。WHOは「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態」を宣言した。

このパンデミックを収束させるために様々な研究と対策が進められ、国際パンデミック条約の締結も提案されたが、進捗状況は思わしくない。新年になっても、昨年9月バイデン大統領が期待した様な収束状況は見通されていない。それどころか、事態の一層の悪化が懸念される。

昨年12月7日、中国政府は、厳格非常な「ダイナミック・ゼロコロナ戦略」に対する大きな抗議が巻き起こったため、この戦略を大きく緩和し、感染しても無症状や軽症の人々は施設隔離でなく自宅隔離でよいことになった。

ロックダウンの範囲も期間も大幅に短縮された。1月8日からは、海外旅行も自由化された。これらの対策の突然の緩和の結果、12月から数百万人が感染し、医療機関への重圧が激しくなり、多くの高齢の人々が死亡した。

しかし、中国当局は、肺炎や呼吸不全で死亡した感染者以外は新型コロナ死とは認定しないように、統計方法を変更した。

さらに重症者と死亡者数の公式発表を取りやめた（1月15日現在再開されているようだが：松崎）。

北京では現在感染のピークを越えたようだが、中国当局と中国の人々は今後厳しく困難な状況にさらされると考えられる。以下にその理由を述べる。

第一。高齢者のワクチン接種率が低いこと。

中国国家衛生健康委員会は、昨年11月末にオミクロン株に対する効果が弱い国産のワクチン2回接種とブースター接種を完了した率が、60才以上の69%、80才以上の40%と報告している。

現在高齢者を中心に接種促進を行っている。中国のワクチンメーカーは現在二価mRNAワクチンを開発中だが、認可までに時間がかかるだろう。

第二。

中国では1月22日を中心に春節の数億人規模の住民大移動が始まる。都市から医療資源の乏しい地方に多くの人々が集まり高齢の人々と3密になる。

北京大学ランセット委員会が指摘しているように、この3年間会うことのできなかった家族親類と会い、コロナ前のライフスタイルに戻る結果、感染と重症化が膨大にひきおこされることは必至だ。

第三。

国際社会の多くは、中国からの旅行者に陰性証明を義務付けるなど、同情の余地のない対応をしている。しかし欧州CDCは、中国で流行しているオミクロン株BA.5.2 and BF.7は、すべて、ヨーロッパで流行済みの株であり、すでに集団免疫が成立しているため、陰性証明は不必要だと述べている。

新たな変異株のサーベイランスとデータ開示は必要だろうが、中国からの旅行者に差別的な扱いを行うことは非生産的であり、思わぬマイナスの結果をもたらすおそれがある。

現在XBB1.5と言うオミクロン派生株がアメリカで急増している。CDCによれば、昨年12月末の時点で、アメリカの流行株の40.5%を占め、毎週感染者が倍増している。

WHOの新型コロナ技術主任マリア・ファン・ケールホープ氏は、この株がスパイク蛋白にACE2受容体結合力と抗体すり抜け力が極めて高いために、これまでに最も感染力が高いウイルスと呼んでいる。

今のところ、重症化率の高まっている国や地域はほとんど見られないが、ニューヨークを中心に流行している。

結論としては、終息を楽観視することなく、感染防止を怠ることなく、自分の国や地域では大丈夫だと安心することなく、すべての人々が、コロナと戦う体制を維持する必要がある。

感染数、入院数、重症者数、死亡者数を隠さず、変異株のサーベイランスを継続し、ワクチン接種を進めることが必須である。

新型コロナパンデミックは終息に程遠いのだから。